

岩村 みゆき 議員

Q・うつ・自殺予防の啓発に「こころの体温計」を

A・導入する考えはない



Q うつ・自殺予防の啓発はどのような方法で行っているか。

A 生活福祉部長
がん検診時に、啓発パンフレットを配布。

また、保健師による健康教室、臨床心理士による「心の健康相談」を実施した。

Q 若い男性の利用はあるのか。

A 生活福祉部長
24年度は0であった。それ以前もほとんどない。

ないことから、繰り返し啓発する効果は少ないと考える。

また、個人を特定できない点もあり今のところ導入する考えはない。

※「こころの体温計」とは、携帯電話やパソコンでストレス度や心の落ち込み度を簡単にチェックできるインターネット上のサービスのこと

Q 北名古屋市で導入されている「こころの体温計」を導入してはどうか。北名古屋市は、若手の方への啓発にとてもなつたと話していたが。



認知症サポーターになろう

Q サポーターのフォローアップはどうしているか。

A 生活福祉部長
24年度から、小中学校の福祉実践教室で実施し、750人以上の参加があった。18年度から25年度で累計2871人となった。

現在行っている「介護者の集い」を発展させ、家族や認知症サポーター等が集う場を「認知症力フエ」として開設したい。

Q 厚労省が進めている「認知症力フエ」の設置は。

A 生活福祉部長
現在行っている「介護者の集い」を発展させ、家族や認知症サポーター等が集う場を「認知症力フエ」として開設したい。

Q・これからの認知症対策は

A・認知症力フエを開設したい

Q 現在の認知症対策は。

A 生活福祉部長
65歳以上の要介護認定者以外の方へ、介護予防の必要性を判断する基本チェックリストを送付。そこで、認知機能の低下を発見することができる。

Q 早期発見の方策はどう考えているか。何か始めるべきではないか。

A 生活福祉部長
現在の実施事業や地域の方々の協力のもと、早期発見に努めているため、新たな方法は考えていない。

今年度から、アンケートに意向調査を追加する。

今までは、行っていない。

早期発見の方策はどう考えているか。何か始めるべきではないか。

現在の実施事業や地域の方々の協力のもと、早期発見に努めているため、新たな方法は考えていない。